

# PHAYAOLレポート 2008-05 (～寮生との別れ～)

スタディツアー参加者からの報告 (日刊新周南 連載記事から)

藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元KRY取締役ラジオ局長

2008年(平成20年)10月30日(木)

4



## 少数民族モンを訪ねる 寮生との別れ

貧しい山岳少数民族  
モンの子どもたちに教  
育の機会を与えるため  
にタイ北部に建設され  
だシヤンティ学生寮は  
現在、男女合わせて四  
十五人が生活してい  
る。個室はなく、男子  
寮、女子寮ともに大部  
屋が二つ。一部屋に蚊  
帳を張ったベッドが十  
二、三人ずつが廊下の  
台でもう勉強してい  
るのびびりする。  
食事当番になると朝  
食と昼の弁当の用意が  
あるので、勉強は夜の  
うちにするのだらう。  
勉強するため至れり尽  
くせりの日本の子ども  
たちとは大違いだ。  
何十、時には百、  
以上離れた山に住む家  
族と離れ、勉強させて  
もらっているの、意  
欲が違うのだろうか。

朝5時過ぎから勉強を始める男子



モン族独特の楽器 ケーン



寮に滞在したのはわ  
ずか三日間だったが、  
別れの前後には試験中  
なのにお別れ会を開い  
てくれた。  
モン民族衣装を着

て、踊りや笛のケーン  
というモン独特の楽器  
を演奏するが、モンは  
文字を持ってないから  
楽譜などはない。親た  
ちが吹くメロディを耳

で覚えるという。  
貧しくても全員が自  
分たちの民族衣装を持  
っているのはモンとい  
う民族の誇りの表れた  
らう。

翌朝七時半の登校前  
に寮の前に全員が集ま  
って記念写真を撮り、  
手を振りながら学校に  
向かう。

その時は日本の加工食  
材をたくさん持って来  
て食べてもらおう。  
それにしても紀元前

めには土産を持って来  
たが、寮生のためには  
何も持って来なかった  
ことが悔やまれる。  
春の進級・卒業の時  
にまた会いに来よう。

向かう。  
一緒に  
食事当番  
をして仲  
よくなつ  
た女生徒  
が私と目  
が合うと  
遠慮がち  
に手を振  
る。思わ  
ず涙ぐん  
でしまっ  
た。  
ホーム  
ステイす  
る家のた  
たが、寮生のためには  
何も持って来なかった  
ことが悔やまれる。  
春の進級・卒業の時  
にまた会いに来よう。

から中国に住み、漢民  
族に追われて東南アジ  
アに住むようになり、  
常に被支配民族だった  
とはいえ、長い民族の  
歴史を持つモンはなぜ  
文字を持たなかったの  
だらう。

寮からタイの学校に  
通い、タイ語での読み  
書きをする彼らがモン  
の言葉を忘れずに次世  
代に引き継いでほしい  
と思いつながら別れた。  
(元山口放送取締役ラ  
ジオ局長)



モン民族衣装で踊る寮生